

オーディオ実験室収載

ZANDEN Model 120 の活用(8) —Model 120 設定条件の試聴(8)—

1. 始めに

前報(7)に引き続き、アナログ盤を選定して Model 120 の設定条件を替えて試聴していきます。今回は、ARCHIV 盤を選定しました。

2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の導入(2)と同様、下記のとおりとします。

LP-12→(フォノケーブル)→AACU-1000→Model120(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランス/バランス変換ケーブル)→P&G フェーダー(バランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→300B シングルアンプ(バランス入力端子)

なお、クロスチェックの意味で、カートリッジは、ZYX R100-EX とし、接続に関しては、Garrad401 の再構成(10)と同様、下記も使用します。

Garrad401→(フォノケーブル)→Stage1030(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→AACU-1000→(RCA ケーブル)→Brooklyn DAC+(アンバランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→P&フェーダー(バランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→300B シングルアンプ

音源としては、下記の ARCHIV 盤を選んで聴いていきます。

ARCHIV MA 5073(日本ポリドール)

J.S.Bach : 2Cantaten・3Motteten

カール・リヒター指揮ミュンヘンバッハ管弦楽団

クルト・トーマス指揮グヴァントハウス管弦楽団

ARCHIV MA 5119(日本ポリドール)

J.S.Bach : 3つのヴィオラ・ダ・ガンバとチェンバロのソナタ

アウグスト・ヴェンチンガー(ヴィオラ・ダ・ガンバ)

エドゥアルト・ミュラー(チェンバロ)

ARCHIV 28MA 0020(日本ポリドール)

J.S.Bach : チェンバロと弦楽の協奏曲

トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート

ARCHIV MA 500(日本ポリドール)

J.S.Bach : ツッカータとフーガ

ヘルムート・ヴァルハ

ARCHIV SLAM-(日本グラモフォン)

J.S.Bach : ツッカータとフーガ・トリオソナタ 6 番

ヘルムート・ヴァルハ

3. Model 120 設定条件の試聴結果

試聴は、RIAA の正相からスタートして、種々切り替えて聴いていき、良さそうなところで、第 4 時定数も決めていきます。

ARCHIV MA 5073(日本ポリドール)の 2Cantaten・3Motteten は、RIAA の正相からスタートしましたが、音が散漫ですので、逆相にし、ついで TELDEC にしますと、焦点があつてバランスも良くなります。第 4 時定数が High では、すこしギスギスしたところがありますので、Mid にしました。

ARCHIV MA 5119(日本ポリドール)の 3 つのヴィオラ・ダ・ガンバとチェンバロのソナタは、ARCHIV MA 5073(日本ポリドール)の 2Cantaten・3Motteten と同じ経過を辿って TELDEC、逆相で、第 4 時定数は Mid にしました。

ARCHIV 28MA 0020(日本ポリドール)のチェンバロと弦楽の協奏曲は、[吉田苑大阪試聴会 \(2019.10.20\)](#)以来、何度も聴いていますが、改めて聴きなおし、TELDEC、逆相の第 4 時定数が High に落ち着きました。もともと響きが豊かに入っていますので、第 4 時定数を Mid にする必要はありません。改めて、Garrad401 の ZYX R100-EX でも聴いてみましたが、Brooklyn DAC+ の位相反転をした方の定位がよくなります。

ARCHIV MA 500(日本ポリドール)のツッカータとフーガと ARCHIV SLAM-1(日本グラモフォン)のツッカータとフーガ・トリオソナタ 6 番は、地元のホールで聴く機会がありますし、同じヴァルハの演奏を比べることに興味があります。

ARCHIV MA 500(日本ポリドール)は、TELDEC、逆相の第 4 時定数が High で良さそうです。RIAA にしますと、ペダル領域の低音が曖昧になりますし、逆相にしますと音の焦点が定まりません。

ARCHIV SLAM-1(日本グラモフォン)は、ラベルにブルーの 2 重丸があり、これも TELDEC、逆相の第 4 時定数が High で良さそうです。ヴァルハの演奏はシュニットガーのオルガンで演奏しているはずですが、ARCHIV MA 500(日本ポリドール)と比べるとこちらの方が重厚で、ARCHIV MA 500(日本ポリドール)の方は、やや軽快で明るい音がしており、地元のホールのイスのクーン社のオルガンに近い印象です。

4. まとめ。

今回、聴いた盤は、すべて TELDEC、逆相で良く、第 4 時定数は録音の響きの録り方に応じて調整すればよいと思われます。

以上